

BARAI Munim Kumar 教授



COVID-19 パンデミック

: 損失額と新たな世界的課題

新型コロナウイルス感染症（以下、「COVID-19」という。）は、世界的なパンデミックとなり、数百万人が感染し、数十万人が死亡しています。人命に関わるコスト以外にも、貿易や雇用に関わる経済的コスト、家庭内暴力やうつ病患者、自殺者の増加などの社会的コストなどにより、多くの国に甚大な影響を与えていることが明らかになっています。COVID-19が人々の生活様式に混乱をきたしていることは言うまでもありません。



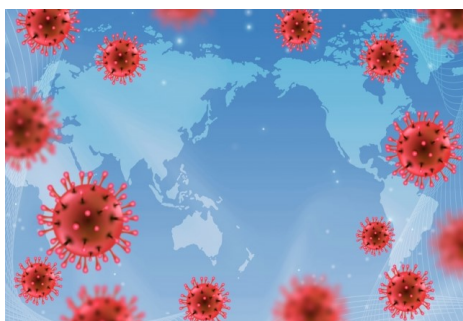
このパンデミックの長期化により、グローバル・ガバナンスシステムに影響を及ぼす可能性のある様々な経済的・戦略的問題が浮き彫りになっています。具体的には、現在の世界的な不況が大恐慌を引き起こす可能性や、グローバルサプライチェーンの中国に対する過度な依存を減らすための運動などが挙げられます。さらにポストCOVID-19時代には、輸入代替工業化政策等の産業政策の再設計が進み、それによって地元企業が財やサービスの生産に関して重要な役割を担うようになるかもしれません。また、中国の国家中心主義やグローバルガバナンスモデルが、米国主導のルールに基づいた国際秩序に対抗することで二極化世界が出現し、これが長期的な戦略的意義を持つことになるかもしれません。従来国際秩序は、ウェストミンスター型の

民主主義と資本主義が混在したものが主流となっていますが、ポストCOVID-19時代には、政治的に権威主義の野党のもとで政府主導の民間経済のエッセンスを含むようになることも考えられます。

この研究では、私の専門分野である経済的な側面だけではなく、政治的な側面、環境的側面など複数の理論的枠組みを取り入れたハイブリッドな方法論を用いて、ポストCOVID-19時代に「ニューノーマル」が確立されることを主張しています。ポストCOVID-19時代に起こる一時的な変化は世界中に影響を与える可能性があります。アジア太平洋地域の国々はより身近なところでこの変化の影響を受けると考えられています。

今後は、中国や東南アジアのサプライチェーンに参入したメーカーがほとんど進出していないバングラデシュとインドに注目して研究を進めていきたいと考えています。「チャイナ・プラスワン」政策を考慮すると、海外投資家が投資先の多角化のために生産拠点をインドやバングラディッシュに移すことは、良い選択になると考えられます。したがってこの2カ国は、中国の対抗勢力としてグローバルなサプライチェーンを再設計するための潜在的な魅力が高まる可能性があるのです。

また、「中国経済の変遷」、「COVID-19が中国の一带一路構想に与えた影響と今後の影響」、「中国の周辺諸国との国境管理」、「日米豪印戦略対話に関する中国の立場」といった視点から中国に焦点を当てた研究を進めていきたいと考えています。中国によるCOVID-19の管理は、他国の利害関係者の中でネガティブなイメージを生み出してきました。こういった意味では、中国のグローバル・リーダーとしての志が薄れてきているとも言えるでしょう。また今後、多国籍企業の流出が現実のものとなるのであれば、中国は様々な変遷を経て、より国内消費を重視した経済戦略を展開していかなければならなくなるのが予想されます。



学部

国際経営学部

研究分野

金融、金融市場、金融制度、商学、
財政学、貧困削減のための経済政策、
会計学、国際経済関係論